

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 2 月 7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3492700038		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑 廿日市東		
所在地	広島県廿日市市桜尾本町3番21号 (電話)0829(34)3800		
自己評価作成日	平成23年1月31日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	
------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4丁目46-9
訪問調査日	平成23年2月3日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中で喜怒哀楽を共実感していただけるようにスタッフ一同、知恵を出し合い、力を合わせて、「笑顔の絶えない明るい施設」であり続けられるよう頑張っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>最寄りのJR駅や私電の駅から近く、バス停からも徒歩1分と利便性がある。ホームの設立にあたり、地域からの待望もあり、地元との良い関係が構築されている。地域から、日本舞踊や、よさこいソーラン節やボランティアの方が、よく来所され、交流がある。特に避難訓練は、日頃から利用者と一緒に、実行されている。そして、居間の壁や廊下には、ホームの代表者のコレクションである絵画が、数多く飾られ、利用者や外部から来訪される方の目を楽しませている。ホームの特長としては、管理者を中心として、介護の質向上を目指し、独自の質向上計画書を作成し、職員の自発性を育てながら、日々、研鑽に努めておられるホームである。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	運営理念と年間目標を設定して、統一を図っている。	「個人の尊厳の保持を趣旨とし、自立して、その人らしく最高に生きて頂く」という理念を柱として全職員より汲みあげた努力目標を掲げて実行に移されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	地区の一斉清掃や保育園の運動会にも参加している。	地域よりの色々な行事に招かれ参加させてもらっているが、施設からの招きには地域より未だ参加を得られていない。	介護教室等を開催して、講師を派遣するなど、今後も運営推進会議やその他の機会を利用して、地域との親密な関係作りをされる事が期待されます。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	高校生の職場実習の受け入れを行い、ホームの機能を還元している。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	3ヶ月毎の運営推進会議では、サービスの状況や評価の報告などの話し合いを行っている。	運営推進会議に参加される方が、毎回、20人近くおられ、利用者の家族も多数、参加され、積極的な意見交換をされていて、質問に対しても丁寧に対応されている。	災害対策についても会議の議題に載せられ、地域との連携が得られることが期待されます。又、包括支援センターの職員にも会議出席の声かけを望みます。
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	廿日市市の介護保険係にサービスの状況、取り組みなどの報告を行っている。介護相談員の受け入れも毎月行っている。	市の高齢介護課の職員が、毎回、運営推進会議に出席されている。又、1カ月に1回、市より、介護相談員の訪問を受け、利用者1人1人に声かけをしていただき、利用者には喜ばれている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修等で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいるが、危険を伴い玄関は施錠を行っているが、季節に応じて開放している。	身体拘束をしない方針で、取り組んでいる。ホーム長が作成された「言葉のチェック表で、口調や表現、介護等について、自己点検をしながら、拘束をしないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修等で高齢者虐待について、理解を深め、虐待のないケアを実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業や成年後見人制度について理解している。入居者の中に制度を利用されている方もいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	文書と口頭で十分な説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	不満や苦情等の相談を受け入れる体制も整えている。相談があれば運営推進協議会等で検討したい。	家族が言いやすい雰囲気がある。運営推進会議や面会時に出された意見や要望については、みんなで話し合いを行なっている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月一回、合同でスタッフ会議を行い意見交換を行っている。	毎月のスタッフ会議において、運営全般においても職員が意見を出しやすいよう取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ユニット毎の配置ではなく、全職員が馴染みになるため、信頼関係が作られるように心がけている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入社時は、苑内のオリエンテーションを行っている。その後の研修については、レベルアップを図るため合同で行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所の施設見学も行っており、意見交換や情報の収集を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	面接や見学時に話を聞かせていただき、相談に応じている。必要な情報は職員に周知を図っている。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	面会時にコミュニケーションをとりながら要望を汲み取り、きちんとしたアセスメントを行うようにしている。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	必要に応じて、介護保険制度のサービスなどについての情報提供を行っている。		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	粘土細工で作品作りで、共感したり、支えあう関係を築いている。		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	毎月、ご家族宛に近況報告や行事等、また、面会時に生活の様子や意向を伝えていくことで信頼関係を築いている。家族会を行い、交流を図っている。		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	ご家族や知人の面会時などで、情報収集を行っている。	施設入居以前に利用されていたデイサービスを引き続き、入居後も通所されている方を支援されている。又、近所の方が、来訪されたり、地域の秋祭りの大名行列に参加したりしている。	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	同じ目的で作品作りや歌集の合唱等を取り組んでいる。		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	退所された後でも、電話でご家族に近況を聞いたり、面会にも行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりの状況や意向の把握に努め、できることを介護計画に取り入れ実践している。	利用者のこれまでの暮らし方や日頃の生活の中での行動、言葉を通して、本人の希望、家族の意向の把握に努め、支援をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に今までの生活歴等について情報収集を行い、入居者一人ひとりの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	各入居者の有する力等を把握し、一人ひとりの時間に合わせた役割作りなどの援助を行っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的ミニカンファレンスを行い、ケアプランの作成をしている。ご本人・ご家族のニーズを聞き取りケアプランに盛り込んでいる。	月1回のカンファレンスにおいて全職員で、現状の把握を行い、本人・家族の希望が反映されたケアプランを作成している。又、6ヶ月ごとの介護計画の見直しや状態変化時も同様に、現状に即したものを作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者一人ひとりの行動記録があり、状態やケア内容、気づき等を記入している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	地域の支援を受けての施設である利点を生かし、地域に役立つことを見つけていきたい。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	週一回、入居者の方とスタッフが一緒に近くのスーパーに買い物に出かけるようにしている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月一回、合同でスタッフ会議を行い意見交換を行っている。中尾医院からの往診で連携を図っている。	月1回、かかりつけ医の往診があり、コミュニケーションを計りながら身体の状態や生活面を見ている。他マッサージ師が来所し希望者に受けてもらい、排便のコントロールには効果を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師2名で交代勤務をしており、24時間体制でいつでも連絡がとれるような体制にしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が方が入院された場合、入院先の職員と連携を図りながら状況の把握や退院の方向性などについて話し合っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末に対する対応としては、指針を定め、家族・医師を交えて話し合いを行っている。事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえて、方針をチームで話し合っている。	「重度化した場合における対応に関する指針」を作成しており、医療機関との連携体制等、家族に説明し、同意を得ている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルを作成し、状況に応じて医師に連絡。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月利用者とともに避難訓練を行っており、運営推進会議での地域の協力も呼びかけている。	朝の申し送り時に火災報知機の使用法についての訓練を定期的に行っている。又夜勤者は月初めの一週間は1対1での避難訓練を実施し、15日を自主防災訓練日と定めて出勤者全員で実行されている。	
月初めの					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は常に日頃からプライバシーの確保については確認しながら徹底を図っている。	当ホームのホームページやほのぼの通信等に写真等掲載について利用者や家族、一人ひとりに同意する・同意しないを聞きながらプライバシー保護に努めている。又、言葉遣い等も点検している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の意思に極力添えるように配慮している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの体調に配慮しながらその日、その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個性のある支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者本位		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立は、利用者の嗜好を出来るだけ取り入れ、利用者の状況にあった調理法や、利用者ができることを大切にしている。	食事の準備や片付けは、出来る範囲で、もやしのひげ取りや盆ふき等を行なっている。食事介助の方もおられるが、ゆっくり待ちながら、その方のペースで支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態を把握して、食事摂取量や水分量は記録して支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとりの状態を把握して、毎食後口腔ケアに取り組んでいる。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの状況を把握して声かけに取り組んでいる。	病院からオムツで退院された方が、職員の連携支援で最近紙パンツに改善される等、1人1人のパターンにあわせて小まめに声かけをしてトイレ誘導が行われ、自立に向かう支援をされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	その人に合ったコントロールを行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員の配置の関係上大枠は決めているが、順番、時間は利用者のパターンで決めています。	週3回と決めているが、利用者の意向に沿って支援している。又、足浴等、工夫しながら、清潔保持に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの状態に合わせて、臥床する時間を設けて、実施したり薬による紺とコールを行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の管理の徹底と、確認の徹底と病状変化の早期発見に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割,楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように,一人ひとりの生活歴や力を活かした役割,嗜好品,楽しみごと,気分転換等の支援	職員は入居者一人ひとりの好きなことや出来ることを把握して,散歩などその人に合った支援をしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって,戸外に出かけられるよう支援に努めている。また,普段は行けないような場所でも,本人の希望を把握し,家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出願望の方には,職員が交代で買い物に同行している。	食材の買い物に同行される利用者や,一週間に1度近所のスーパーよりお迎えの車が来所し,希望される利用者を同行して外出支援に役立てている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は,本人がお金を持つことの大切さを理解しており,一人ひとりの希望や力に応じて,お金を所持したり使えるように支援している。	苑の方で管理している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり,手紙のやり取りができるように支援をしている。	状況を見ながら,利用者の意に沿えるように支援していきたい。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関,廊下,居間,台所,食堂,浴室,トイレ等)が,利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音,光,色,広さ,温度など)がないように配慮し,生活感や季節感を採り入れて,居心地よく過ごせるような工夫をしている。	観葉植物や廊下には絵画の額が展示されており,落ち着いた居心地の良さ。	居間のカウンターには,利用者一人ひとりの写真ファイルが,置いてあり,利用者や家族が,よく手に取って見られている。又,職員が寄付されたひな壇飾りが,飾ってあり,家庭的な雰囲気や,過ごせるよう工夫されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で,独りになれたり,気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのテーブルの居場所を決めておられる。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は,本人や家族と相談しながら,使い慣れたものや好みのもをを活かして,本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅から持ち込まれた小物入れやタンス等が置かれ,自作の粘土細工も置かれて和やかな雰囲気が作られている。	利用者と家族が相談して,寝具や調度品,家族の写真等,馴染みの物を持参され,居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして,安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	洗濯物干し,取り込み,園芸等の収穫		

グループホーム ほのぼの苑 廿日市東

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホーム ほのぼの苑 廿日市東

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ほのぼの苑廿日市東

作成日 平成 23年1月25

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		地域が閉鎖的で関わりが少ない	地域の方と気軽に話し合え、蜜になれること	地域の行事に積極的に参加し、苑での行事にも参加していただけるよう働きかける	1年間
2		地域とのコミュニケーション	お互いに支え合えるような関係作り	認知症介護教室	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。